これではたまらん
新聞のだましうち値上げ

○…新聞代の抜き打ち値上げほど横暴な話はない。「ことしは私鉄電気、ラジオなどが値上りするだろう」といいながら新聞自身のことには一言もふれず、三月三十日になつていきなり「四月から値上げするぞ」と通告した。これはまつたくだまし打ちだ。

○…値上げの最大の理由は「経営の困難」だといつている。(1)販売手数料増額の要求(2)コスト高などがその内容である。ほんとうか？販売店側は手数料増額や配達員の週休制実施資金を要求しているが値上げを望んでいない。値上げで読者からの反撃を直接受けるのは販売店であり、また拡張がむつかしくなるからだ。販売店側は「押紙（無料の宣伝紙）をなくしムチャな競争をやめれば値上げしなくともすむはずだ」といつている。

○…「コスト高」の原因には用紙代の増加などをあげているが、とんでもございません、といいたい。新聞製作費の四割を示める（大新聞の場合）用紙費は昨年四月ポンド一円値下りし、ことしも過剰生産で値下げ必至だといわれている。広告はテレビ、ラジオの雑誌の影響があるとはいえ、広告面の増大、広告費値上げなどで広告収入の絶対額は三十三年は前年の一千二十億円にくらべて一〇パーセント以上上回つている（電通推計）。人件費の増加という理由は、「新聞労働者の賃上げが新聞経営を危くしている」といわんばかりのリクツだ。

○…新聞は他の物価にくらべて安い、と新聞社は言う。これもあやしい。日銀の統計による公共事業費（昭和八年一〇〇）では、(1)理髪四六六(2)新聞三四八(3)入浴三一〇……と新聞は第二位を占めているのだ。

○…新聞は「苦しい」と言いながら設備投資にバク大な金を投じている。朝日は大阪に四十億、東京に三十億かけてビルをつくり他社もビル競争に大わらわだ。ラジオテレビへの投資、スポーツその他の事業に使う金も大きい。だが何といつても一ばんの問題は朝日、毎日、読売三大紙の北海道進出である。毎日、読売三大紙の北海道での競争資金じやないのか」と気づいたことだろう。まんまと一ぱいくわされたといつたかたちだ。だがこれはエイプリル・フールにしてはあまりにもあくどすぎる。新聞の五億の資金が準備されているといわれる。

○…大新聞の設備更新、資本力の増大は北海道はじめ全国的にさらに激しい競争をまきおこし新聞の独占集中、系列化がすすむことになろう。これは新聞労働者にとつての死活問題であるだけでなく、言論の自由にとつても重大な問題となる。なぜなら大資本と結びつくほかに新聞は成り立たなくなるからだ。

○…「北海道で印刷開始」の社告が各紙に出たのは値上げ社告の翌々日四月一日だつた。「紙面拡充なら値上げもガマンしよう」と思つた人も「値上げは北海道での競争資金じやないのか」と気づいたことだろう。まんまと一ぱいくわされたといつたかたちだ。だがこれはエイプリル・フールにしてはあまりにもあくどすぎる。新聞のクロは捨犬をひろつてきたのでした。犬は元来人から愛されるようなところを持つているものだがクロはやせつぽちの短い毛で、どこも真黒で、おせじにも可愛らしいとはいえない顔をしていましたそのせいか子供が、犬の立場など考えるはずもなく極切れてなくつたり小石をなげたりするものだから、もう人をこわがつて呼んでも一定距離以上は近ずかない程にいじけきつていました。時には可愛想に思つてやさしくしようとする人がいても、自分の方から近ついてこないのでなえつてにくらしくなるといつていました。

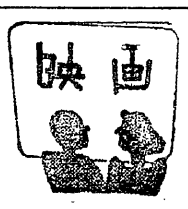
そんなクロも、どうしたわけか私にはよくなついていて、帰えりを社宅の入口ちかくまで出迎えたり、どこへでもついてきたりするものだから、おみやげに犬の好きそうなのを買つて帰つたりしたものでした。クロが信じ切つているようすを見ると、可愛想なのも手伝つて私の方からもますます可愛がるのでした。

そのクロがある日、朝から家を出たきり帰つてこなくなつたのです。きつと犬取りにでもとられたのでしよう。あんなクロだつただけにひどく気にかかつて、今でも家では故人を語るように話が出てくるのです。

どんな馬鹿な犬でも、可愛がつてくれる人はちやんと知つていてついてくるから不思議なものです

※　※

心がはずんで希望を持つている人はどんな人でも美しく見えるものです。友人のS子さんも、その美しく見える一人です。彼女は、



愛情

(16)

前田幸枝

戦争中、息子を兵隊にとられた近所のおばさんが、雨が降るといつも〝雨降りや嵐にならぬよう…〟と唄をうたいながら、苦労しているであろう息子のことを思つてか、涙をながしていたのを知つている。しかし戦後、この同じ自分の子供を思う愛情が、戦争反対につい先頭まで〝私は恋愛などできそうもない、だつて全然自信がないもの〟といつていたのでした。ところが先日〝私にはとつてもすばらしい仲間ができた。二人はサークルの最少単位だつていう意味がはじめてはつきりわかつたような気がする。いままで、勉強するには恋人などいない方がいいと負けおしみみたいなことをいつていたけど、そうじやないことがわかつたの。はげまし合い、話し合いますます勉強する張合いが出るのこれから、やりたいことをどんどん二人でやつてゆきたい〟こう語るS子さんの顔はかがやいていました。

それに何よりも、えらいナと思つたのは、二人だけにとじ込もらずに、サークルの中で活躍しているし、二人が人間としてまた同じ立場に立つ仲間として互いに尊敬し合い、二人の結びつきによつてより以上に成長しようとしていることでした。

※　※

ある学者会に出席した時、先輩のKさんからこんな話をききました。

原水爆反対運動等となつてきている。愛情にも階級性があるのではないかと。

また三川支部の遠藤さんの不当解雇をめぐつて、彼の「首切り」をゆるしてはならないと、職場で地域で語られているのをきいていると、グツと胸にあついものがこみ上げてくる。しいたげられている「階級」だけがもつこの横への力強い連帯感。

同志としての愛情が皆の胸のうちに、あつくかよいあつている。

愛情にも、さまざまのものがある。しかしどんな愛情も前向きでなければいけないと最近つよく感じています。自分だけが良くなることしか考えることのできない人は「不幸な人だ」とも思うのです

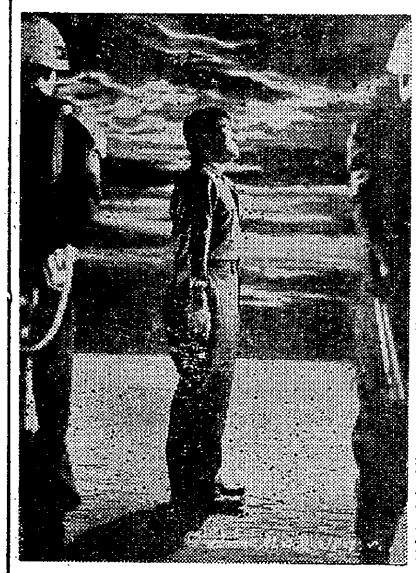
（本所支部　書記）

わが大平社宅

ここは西を除き山に囲まれ、まん中に大きな池あり、すりばちの底みたいだが、なかなかどうして天然の築山と泉水を持つた実に風光明媚な所である。月の出ずるときはさらに情緒豊かな地である。加えて交通の便がよい。すなわち東に通勤電車、南に市電、西に荒尾駅およびバスあり、一歩社宅に入れば二戸改造も大半終り、内部は充実しすつかり面目を一新した。住む人も（以前は事件もあり有名だつたが）皆気持のよいほど仲よく、社宅全体がさながら一個の家庭のように毎日明るく暮している。

そのとき浴場がいい。ほんとにここの湯が満々とたたえられ、終い風呂でも湯は湯を注ぎこしており、脱衣場は明るくきれいで他の追従を許さぬ最上級の浴場だろう。これはひとえに西森浴場夫氏の熱意の賜である。この誠に感謝してか、社宅の人は浴場洗いを手伝つたり、その他に協力している。なかんずく正月二日の朝風呂には、タオルや寸志を番台に差出す人が多い。何とうれしいほほえましい風景であることよ。なお当浴場は開設以来かくの如くであつた。この伝統をつくつた前任者の塩崎、奥野氏の功も忘れはしない。大平社宅はかく明るい平和郷であることを紹介し、最後に社宅の繁栄と平和を祈る。

（盛激生）



映画

究極場における人間の絶叫を描く問題作
私は貝になりたい

清水豊松は高知の漁港町で理髪店を開業しながら女房の房江と一人息子の健一と幸福に暮していたその豊松にもとうとう赤紙がきた。兵隊としての豊松は、要領の悪い上等兵であつた。生れつきの善良さが、かえつて愚鈍とされ、年中上官にいじめられた。

ある日、高射砲で撃墜されたB29の搭乗員が中部地方の大北山山中にパラシュートで落下した。

捜索隊が発見した三名の米兵は一名が死亡、あとの二名も虫の息であつた。

捕虜の処分を足立小隊長に命令した。命令は木村軍曹の率いる第三班の立石上等兵に伝えられた。「一番ダルンでいる奴にやらせろ」立石が選びだしたのは、滝田と豊松の二名であつた。豊松の顔からはまつたく血の気が失せ、着剣も思うにまかせなかつた。「突撃ツ前へ！」立木に縛られた米兵を前に豊松は足がすくんで思わず立止つた。立石上等兵のビンタが豊松に飛んだ。「臆病者！上官の命令は天皇陛下の命令だぞ」気をとりなおした豊松は、歯をくいしばりながら米兵に突進した……

戦争が終つて、豊松はふたたび家族と一緒の平和な暮しにもどつた。しかし、無罪で帰れた幸せを噛んだのも束の間、大北山軍件の戦犯として逮捕されてしまつたのである。豊松は同房の西沢と嘆願書を書きつづけた。房江も町の人たちの助命嘆願書をもつて来たりするたびに豊松の釈放を信じ、将来の設計を語つて帰つていつた。

巣鴨プリズンにお経の声も忘れられたある日の朝、豊松は突然ジエラーのむかえを受け、チエンジプロツクをいいわたされた。「減刑！減刑！」西沢たちは心から豊松の釈放を喜んだ。しかし故郷の家へ帰れることを喜ぶ豊松を待つていたのは意外にも絞首刑の執行の宣告だつた。豊松はくちびるをかみしめながら一歩一歩、十三階段を昇つていつた……

――もう人間なんていやだ。こんなひどい目に会わされる人間なんて……深い深い海の底の貝だつたら……戦争もない、兵隊もない房江や健一のことを心配することもない。どうしても生れ変らねばならないなら……私は貝になりたい――という遺書を残して……。

（二十六日から太陽館で）

ミスターつるはし　中村かめお

常識 中国史講座

日本と中国とは隣国というばかりでなく、古い昔から文化の交流が……

なるほの本棚 (28)

「現代の倫理」

人生の糧になる

いまの日本の哲学者の中でも大衆によく知られ親しまれている著者が、哲学という専門の仕事の合間に若い人のために書いた小品を集めたものがこの本です。中には外国の専門学術雑誌に載せられたものなども入つていますが、その大部分は大衆のために書かれたものです。

――哲学を生活に役立てるために三つの問題に答える――として、

(1) 生きるとはどういうことか。

(2) 考えるとはどういうことか。

(3) 愛するとはどういうことか。

について、哲学的な深いものの見方と、豊富な人生体験の中から具体的にわかりやすく書かれており、作者の物の見方のすばらしさは、読む人の共感を呼ぶことと確信します。

私は最初ある人にすすめられ読んでいましたが、ただ一通り読むだけでなく、私の毎日の生活の中で、悲しくなつたり、うれしかつたり、絶望的になつたり、希望にあふれている時にいつでも開いてみたいと思い、自分でも一冊買い求めました。職場の若々しい青年や婦人に、生活に慣れてしまつて何か新鮮なものにあこがれをいだいている。愛情にも階級性があるのではないかと。

また三川支部の遠藤さんの不当解雇をめぐつて、彼の「首切り」をゆるしてはならないと、職場で地域で語られているのをきいていると、グツと胸にあついものがこみ上げてくる。しいたげられている「階級」だけがもつこの横への力強い連帯感。

同志としての愛情が皆の胸のうちに、あつくかよいあつている。

愛情にも、さまざまのものがある。しかしどんな愛情も前向きでなければいけないと最近つよく感じています。自分だけが良くなることしか考えることのできない人は「不幸な人だ」とも思うのです

（本所支部　書記）

好みは時代もの
三作図書館でアンケート

三作支部ではこのほど図書館についてのアンケートをおこなつたがさいきん集約しその結果を発表した。配布枚数は三〇五枚、各職場に配つた結果、集約数が二三六枚七七・四%という成績であつた。

まず、利用回数をみてみると開館（昨年〇月）ことしの三月初めまでに、二十回以上が三四・三%十回以上が一八・八%となつているつぎに、では図書館を利用していない人はその理由として暇がないが圧倒的に多く四六・七%、ついで読みたい本がない二九・二%、とくに六、五%の関心のない人もいる。

図書館に備えつけたい本としてはやはり文学関係が断然群を抜き八三・四%、談叢趣味七・五%、社会、科学、哲学が六・一%、政治経済三%となつている。

どんな本を読みたいかをみると歴史、時代小説二〇・九%、ユーモア、風刺小説一九・六%、現代もの一六・四%、推理もの一二・一%が大体肩をならべ以下はずつと落ちて記録、恋愛、翻訳が六―七%となつている。いままで読んだ中で最もよかつた本は(1)人間の条件(2)宮本武蔵(3)織田信長(4)人間の壁(5)点と線の順序である。

好きな著者としては(1)山手樹一郎(2)源氏鶏太(3)吉川英二(4)柴田錬三郎(5)石川達三(6)五味川純平の順。

図書館に望むことでは(1)借本、返本の簡素化(2)希望する本を多く(3)係員の増員(4)図書館の拡張(5)借用期間の延長などであるが、不必要な本の整理、新刊書の案内、図書館の照明装置、読書室の設置など二十四項目があげられている。

こういうとき、日中友好協会大牟田支部では、つぎのように〝中国史講座〟を開講することになりました。これを機会に多くの人がこの講座に参加しましよう。

▽毎月二回　四月・十七日（金）〝済み　二四日（金）午後六時

▽講師　九大助教授・江島寿雄（東洋史専攻）

▽会場　本町六丁目（不知火町踏切りより線路に沿つて南へ徒歩約二分）三池家政専門学校

▽聴講料　三十円

（本部書記　えがみ・まさこ）